

シラバス参照

開講年度	2012
科目名	情報経済論
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	通年 水曜日 3時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	E 2 3 4 , W 3 4
単 位	4

講義内容	<p><到達目標> グローバルに情報化が進展する現在、情報経済論の視点と手法に基づいて日本経済の現状を分析できることを目指す。</p> <p><講義概要></p> <p><前期>米国で組織構造の革新的な変革の手段であるとされる「リエンジニアリング」の検討をするなかで情報技術の役割を明らかにすることから始まり、情報技術の本質、過去の技術との相違、情報投資の実態、組織と技術との関係のほか、一方で影の側面にも検討を加え、情報化社会の基本的な視点を検証する。そして「情報の産業化」と「産業の情報化」が進む日本経済を分析する。</p> <p><後期>前期において情報化社会の本質、組織への影響と日本経済への影響を検討しているが、後期では情報経済論の理論的な側面である、情報の価値、情報財の市場、非対称性、情報経済論などの理論的側面を前半学ぶ。後半は、情報技術とつながりの深い産業に光をあて産業構造、生産性、規制緩和などの経済的、政策的な側面を他国と比較しながら検証する。そして情報技術がグローバルの中での日本の経済の競争力を高めることを確認し、今後の日本経済の成長への影響を分析する。</p> <p><講義計画></p> <p><前期></p> <p>第1回 授業の概要、到達目標、評価基準 第2回 リエンジニアリング革命と情報技術(1) 第3回 リエンジニアリング革命と情報技術(2) 第4回 アダムスミスの分業に対する逆分業 第5回 組織と情報 第6回 技術の発展段階 第7回 市場と組織、ネットワーク 第8回 ネットワークの外部経済性 第9回 ネットワーク産業 第10回 インターネットの歴史と構造 第11回 情報産業の発展 第12回 「情報の産業化」と「産業の情報化」 第13回 情報経済の計量分析 第14回 情報の産業連関分析 第15回 前期のまとめとテスト</p> <p><後期></p> <p>第1回 前期のまとめ、授業の概要、到達目標、成績評価 第2回 リスクと情報 第3回 不確実性下の意思決定モデル 第4回 完全情報の価値と機会費用(1) 第5回 完全情報の価値と機会費用(2) 第6回 情報財の特質と市場 第7回 情報経済論 非対称な情報(1) 第8回 情報経済論 非対称な情報(2) 第9回 情報経済論 分離価格、プーリング均衡、逆選抜、シグナリング 第10回 規制と競争の理論 第11回 電気通信市場における経済的規制 第12回 情報、通信産業の世界市場戦略 第13回 競争力分析(個の競争力、企業の競争力、産業の競争力、都市の競争力、国の競争力) 第14回 全要素生産性と情報技術、日本経済の成長戦略</p>
------	---

	<p>第15回 後期のまとめとテスト</p> <p><教科書> 教科書は特に指定しない。</p> <p><参考書> 以下の本は、参考書として随時講義のなかで利用する。 マッケナン著、秋葉訳、『不確実性の経済学』、多賀出版 広松、大平著、『情報経済のマクロ分析』、東洋経済新報社 林、松清著、『テレコミュニケーションの経済学』、東洋経済新報社 ハマー、チャンピー著、野口訳、『リエンジニアリング革命』、日本経済新聞社 経済企画庁調整局編、『日本経済の情報化』、大蔵省印刷局</p>
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、Web上の掲示板への毎回の授業のまとめ、論考、課題の提出、および、テスト、最終レポートにより判定する。
履修上の留意点	
担当教員へのアクセス	メールによる (mochizuki@post.harvard.edu)
その他	
更新日付	2012/02/03 22:58